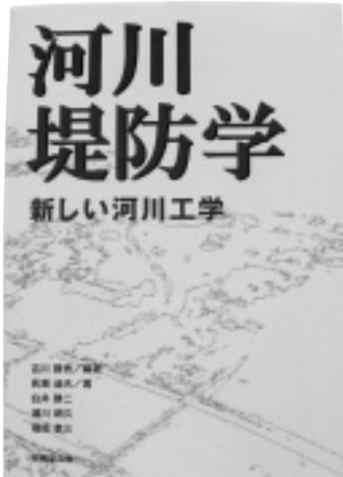


河川堤防学 新しい河川工学

吉川勝秀／編著 長瀬迪夫 白井勝二 瀬川明久 福成多孝三／著



本書は、我が国ではじめて、治水システムとしての河川堤防論を提唱し、河川工学の新しい分野を切り開きました。長年、河川管理の実務に携わってこられた執筆陣が豊富な経験に基づいて、河川堤防の成り立ち、実際の河川管理、堤防決壊のメカニズムから、これからの新しい社会にふさわしい河川堤防の設計・強化論と安全管理のあり方までを体系的にわかりやすく述べています。

河川堤防の仕事に従事する技術者、河川工学の学識者、学生などに、実践的に幅広く活用されることが期待されます。

(文責：向井 直樹)

- | | |
|--|---|
| <p>第1章 日本の国土の発展と治水</p> <p>1.1 国土の原風景の形成—この約1万年の経過—</p> <p>1.2 この2千年</p> <p>1.3 この百年</p> <p>1.4 これからの時代</p> <p>第2章 河川堤防の歴史的な考察</p> <p>2.1 水害を防ぐ工夫と堤防</p> <p>2.2 水塚、輪中堤防・囲堤 部分防御堤防</p> <p>2.3 連続堤防</p> <p>2.4 連続堤防等における安全度の差—左右岸の安全度の差、重要防御地区の設定など—</p> <p>2.5 堤防決壊の原因と決壊しない堤防—スーパー堤防とその位置づけ(点と線)など—</p> <p>2.6 その他の特殊な堤防</p> <p>第3章 実際の河川堤防とその破壊</p> <p>3.1 河川堤防築造の歴史と堤防決壊について</p> <p>3.2 歴史的に築造された堤防</p> <p>3.3 設計された堤防</p> <p>3.4 堤防破壊の実態</p> <p>3.5 堤防破壊の実態からの考察</p> <p>第4章 堤防決壊の原因と堤防の設計・補強論—横断構造としての堤防論—</p> <p>4.1 堤防決壊の原因と対策について</p> <p>4.2 堤防決壊の原因1：越水による決壊の実例と対策</p> <p>4.3 堤防決壊の原因2：浸透による決壊の実例と対策</p> | <p>4.4 堤防決壊の原因3：構造物周りの決壊の実例と対策</p> <p>4.5 堤防決壊の原因4：洗堀による決壊の実例と対策</p> <p>4.6 堤防決壊の原因5：地震による破壊の実例と対策</p> <p>4.7 複合原因(最大限の原因)と対策</p> <p>4.8 境の堤防設計手法の比較</p> <p>4.9 河川の実管理と堤防破壊形態・発生頻度について</p> <p>第5章 治水システムとしての河川堤防論—河川縦断、システムとしての堤防論—</p> <p>5.1 河川の安全度—計画論、実管理論—</p> <p>5.2 河川の連続堤防システムの安全性を柔軟に確保する方法</p> <p>5.3 河川の連続堤防システムの安全性を柔軟に確保する視点</p> <p>5.4 危機管理の論理—被害からの発想—</p> <p>5.5 河川堤防の維持管理、危機管理(実管理)についての考察</p> <p>第6章 これからの時代の堤防管理論</p> <p>6.1 河川堤防の実管理からその1—明確な危険の回避—</p> <p>6.2 河川堤防の実管理からその2—平常時、洪水時の管理—</p> <p>6.3 今後の投資水準を想定した危機管理の視点からその1—連続堤防システムの課題の軽減—</p> <p>6.4 今後の投資水準を想定した危機管理の視点からその2—減災の視点、防災力の強化—</p> <p>6.5 総合的な治水対策と堤防</p> |
|--|---|